

## 消 息

## 鳥羽至英先生のご退職にあたって

鳥羽至英先生は、2016年6月23日に満70歳、古稀を迎えられ、2017年3月末日をもって早稲田大学をご定年退職されました。私たちは、先生が長年にわたり商学学術院における教育・研究にご尽力くださいましたことに対して、甚大な敬意と謝意を表する次第です。

鳥羽先生は1946（昭和21）年に東京都練馬区でお生まれになりました。1965年3月に私立早稲田高等学校を卒業され、同年4月に早稲田大学第一政治経済学部経済学科に入学されました。学部学生時代には、古川榮一先生のゼミにおいて経営学を学ばれ、1969年3月に卒業、同年4月に早稲田大学大学院商学研究科修士課程に入学されました。大学院では、日下部與市先生のもとで会計監査論を研究され、学究の道を歩まれることになりました。1971年3月に修士課程を修了されるとともに早稲田大学学術賞小野梓賞を受賞され、引き続き同年4月に博士後期課程へ進まれました。1972年8月から1974年8月にかけてはIndiana University 経営学大学院に留学され、MBAを取得されるとともに、1974年8月にはアメリカ会計学会学術論文賞（Competitive Manuscript Award）を受賞されています。

その後、1976年3月に博士後期課程を単位取得退学され、同年4月東京都立商科短期大学に専任講師として着任、そして1978年に専修大学商学部に専任講師として就任されました。その後、1979年同助教授、1984年同教授と昇任され、2005年3月まで専修大学にて教育・研究に従事されました。また、この間、1981年から1982年にかけて、フルブライト交換上級研究員としてイリノイ大学に留学され、帰国後の1983年には「監査証拠に関する研究」について、早稲田大学より博士号—商学博士（早稲田大学）—を授与されています。そして2005年4月に、早稲田大学商学学術院商学部教授に就任されました。先生の早稲田大学商学学術院におけるご担当科目は、会計監査論、会計学特論、監査各論、財務諸表監査研究、財務諸表監査・企業監査演習などであり、2005年から12年間に

わたり数多くの優秀な人材を社会に送り出しておられます。

また、先生は、南山大学、法政大学、武蔵大学、愛知大学、早稲田大学社会科学部、東京大学、駿河台大学、秋田国際大学、中央大学において、非常勤講師として会計・監査教育に従事されました。現在、秋田国際大学で客員教授として教育に従事されています。

先生は商学学術院在職中、早稲田大学産業経営研究所編集委員長（2010年から2015年）、早稲田大学プロジェクト研究所会計研究所所長（2013年から2016年）および商学研究科博士課程カリキュラム検討ワーキンググループ座長（2010年から2012年）を務められ、また、各種委員会委員として大学の発展にご尽力くださいました。

他方、学外においては、日本監査研究学会理事、日本会計研究学会、アメリカ会計学会の会員として広く活躍されており、長年にわたり学界の発展に貢献されてきました。また、大蔵省企業会計審議会幹事（1996年から1997年）、公認会計士第二次試験委員（1996年から1998年）および日本公認会計士協会品質管理審議会委員（2013年から現在）を歴任され、実務界においても多大な貢献をされました。

さて、鳥羽先生は研究室のゼミ生やゼミ卒業生の集まりを「鳥羽の巣の会」と呼んでいらしたことからわかるように、学生に対して惜しめない愛情を注いでおられました。例えば、ゼミ生の人数に関わりなく（たとえ1人であっても）毎年必ず行っていた行事があります。それは、ゼミ合宿とは別に、卒業直前の学生と歴史上の名所旧跡をあるいは秘湯名湯を（勉強抜きで）訪れながら、歴史を語るなかで人生を語り、学生各自の個性を尊重しながらこれと向き合い、彼（女）ら1人1人の将来について膝を交えながら話し合う機会を持たれたということです。このような行事を通じて、学生達は、おぼろげであった自分の希望や将来像を徐々に鮮明にとらえられるようになり、自らの道を歩き始めるために必要な現在の課題を自然と意識できるようになったことでしょう。このような、愛情あふれるご指導によって、学生はまさに鳥の巣でのびのびと育つひな鳥のように大きな安心感とともに、巣立ちのときに備えられたのではないかと思います。

鳥羽先生のこのような愛情は、ゼミの学生のみならず、先生とご縁のあったすべての人々やものごとに対して注がれたことはいまでもありません。それは、先生の主催される現代監査理論研究会そしてその面々に対しても例外ではありません。現代監査理論研究会は、全国の大学や研究機関から監査の理論的研究、概念的 연구를目指す学者が

数ヶ月おきに集う鳥羽先生主催の研究会で、およそ30年の実績を持つ息の長い研究会ですが、私の知る限り、先生はこれまでの報告すべてに出席され、時にはたいへん厳しいコメントを菌に衣着せることなくくださいました。研究会参加者は、このような厳しさの奥に学問や学究者に対する深い愛情を容易に感じ取ることができるため、自分たちの研究成果を臆することなく自由に発表できたのではないかと思います。この研究会が長きにわたり活発であり続け、現在までに数多くの優秀な監査論研究者を輩出しているのは、先生の変わらぬ愛情のたまものと感じ入る次第です。

ここで、先生の監査論研究のきっかけとなった出来事について、私なりに理解しているところを紹介させていただきたいと思います。先生は、学部学生時代に受験された公認会計士二次試験の監査論の試験において「監査人は、意見の表明のための合理的な基礎を得るまで、監査を実施しなければならない」ということの意味を問う問題に出会いましたが、この問題は当時の監査論の標準的な教科書から得た知識だけでは解けないだけでなく、この問題に解答を与えるためには、証拠 (evidence) と証拠資料 (evidential matter) の違いに対してより深い理解が必要なことを悟り強い衝撃を受けました。この出来事は、その後、証拠とはいったい何か、証拠はどのように定義されるのか、というより根本的な疑問へと発展し、この疑問に対する納得できる答えを見出したいという強い思いに至ります。この思いが先生の監査研究の中核を形作ることになり、証拠論に関する一連の優れた研究へとつながりました。そして、これらは、1974年における論文“A General Theory of Evidence as the Conceptual Foundation in Auditing Theory”でのアメリカ会計学会学術論文賞受賞や、1984年における著書『監査証拠論』での日本公認会計士協会学術賞受賞をはじめとする、数多くの業績において結実するだけでなく、その周辺領域の研究にも着実に展開していくこととなります。これらのことは、学問との出会いに対する畏怖の念と、これを追究する学究者としての純粋で真摯な姿勢を、多くの後進に感じ取らせ、彼らを監査論という学問領域に誘うことになったのではないかと拝察いたします。鳥羽先生は、このようにして、先生を慕う数多くの監査論学徒を産みだし、わが国の監査研究に人的基盤をも与えたものと確信しております。

最後に、私事でたいへん恐縮ですが、1995年、先生が東京大学において監査論の非常勤講師を務められていたころ、先生の雑誌投稿記事に感銘をうけた当時会計士補の私は、先生のお顔を拝見したことがないにもかかわらず、自分なりの疑問点を先生宛てに

送付するという無鉄砲をしたことがありました。通常であれば、このような向こう見ずは無視されて当然と思われませんが、たまたまその講義を受講していた友人を通じて先生は私をお呼び出しくださり、直接に疑問点をひとつひとつたいへん丁寧に解きほぐしてくださいました。先生の温厚篤実でやさしい心根とともに、学問への純粋な思い入れに深い感動を覚えた次第です。爾来、22年間にわたり先生主催の現代監査理論研究会に出席させていただくなかで、先生に直接教えを受けたばかりでなく、教員になって今日にいたるまで、公的にも私的にも様々なご相談にのっていただき、あるいはご無理なお願いをさせていただくなど、ご迷惑をおかけするとともにたいへんにお世話になりました。ここに改めて先生のご恩に深謝申し上げます。

先生、長年にわたり本当にありがとうございました。これからも、私たちをご指導・ご鞭撻いただけますようお願いいたします。先生が益々ご健勝でありますよう祈念いたします。おわりに、先生の主要な研究業績を、感謝の念を込めて列挙させていただきたいと思えます。

## 著作

- 『監査証拠論』国元書房 1984年。  
『監査基準の基礎』白桃書房 1992年。  
『監査基準の基礎』[第2版]白桃書房 1994。  
『財務諸表監査の基礎理論』国元書房 2000年。  
『内部統制の理論と実務—執行・監督・監査の視点から』普及版 国元書房 2005年。  
『内部統制の理論と制度—執行・監督・監査の視点から』国元書房 2007年。  
『財務諸表監査 理論・制度』基礎篇 国元書房 2009年。  
『財務諸表監査 理論・制度』発展篇 国元書房 2009年。

## 共著

- 『監査の理論的考え方』森山書店 2001年（秋月信二氏との共著）。  
『公認会計士の外見的独立性の測定—その理論的枠組みと実証研究』白桃書房 2001年  
（秋月信二氏・大野功一氏・川北博氏・鈴木稔氏・高田敏文氏・永見尊氏・八田進二氏・前山政之氏・山崎秀彦氏との共著）。

『財務諸表監査』国元書房 2015年3月(秋月信二氏・永見尊氏・福川裕徳氏との共著)。

### 1. 論文(理論研究・概念研究)

「監査証拠論の探求」『商学研究科紀要』第2号 早稲田大学大学院商学研究科 商学研究科開設25周年記念号 1975年 123-134頁。

「試査の系譜と試査を支える諸要因(一)」『会計』第117巻第6号 1980年6月 51-62頁。

「監査基準論—監査基準と監査手続」『専修商学論集』第38号 1984年10月 1-15頁。

「監査理論とエイジェンシー理論—「エイジェンシー監査説」の検討」『研究年報 経済学』第193号 東北大学経済学会 1994年1月 11-27頁。

「監査基準論—アメリカにおける監査基準設定の背景」『会計学研究』第10号 1984年3月 専修大学会計学研究所 63-78頁。

「わが国における財務諸表監査の歩み—3 会計制度監査の終焉」『専修商学論集』第40号 1985年5月 専修大学商学研究科 商学部開設20周年記念号 311-328頁。

「監査理論における意見差控の位置づけ—何が問題で、なぜ問題となるのか1」『会計学研究』第25号 1999年3月 専修大学会計学研究所 47-61頁。

「財務諸表監査における懐疑主義の適用—職業的懐疑心の初期設定とその後の改訂」『早稲田商学』第434号 2013年1月 509-543頁。

### 2. 共同論文(理論研究・概念研究)

鳥羽至英・秋月信二 「監査理論の基調—監査人の認識(四): 価値的言明の認識」『会計』第156巻第5号 1999年11月 112-125頁。

鳥羽至英・秋月信二 「監査理論の基調—監査人の認識(八): 「行為の監査」の理論」『会計』第157巻第3号 2000年3月 91-105頁。

鳥羽至英・秋月信二 「監査理論の基調—監査人の認識(九): 「情報提供」の理論」『会計』第157巻第4号 2000年4月 65-83頁。

### 3. 論文(制度史研究)

「わが国における財務諸表監査の歩み—1」『商学研究年報』第10号 商学研究科 1985年3月 113-128頁。

「わが国における財務諸表監査の歩み—3」『専修商学論集』第40号 商学部開設20周年記念号 1985年5月 311-328頁。

#### 4. 論文（監査史研究）

「キルザント事件の概要と会計・監査上の意義」『専修商学論集』第29号 1980年2月 157-173頁。

「監査理論と監査史 アメリカ植民地時代の会計監査」『商学研究年報』第21号 専修大学商学研究所 1996年3月 63-80頁。

「監査理論と監査史 5—19世紀後半のアメリカの鉄道会社の会計監査」『会計学研究』第22号 専修大学会計学研究所 1996年3月 47-76頁。

「監査理論と監査史 6—旧商法における監査役監査」『南山経営研究』第11巻第2号 南山大学経営学部 1996年11月 411-433頁。

#### 5. 論文（事例研究）

「為替先物予約含み損事件—昭和シェル石油株式会社と鹿島石油株式会社のケース」『月刊監査役』日本監査役協会 第363号 1996年3月 15-51頁。

「内部統制に関する企業事例研究—日本商事株式会社のケース」『月刊監査役』日本監査役協会 第396号 1998年3月 13-35頁。

「内部統制検証 File ⑩ トヨタ自動車リコール届出遅延」『月刊監査役』公益社団法人日本監査役協会 第541号 2008年5月 52-60頁。

「循環取引による加ト吉粉飾決算事件(上)」『月刊監査役』公益社団法人日本監査役協会 第580号 2011年2月 28-46頁。

「日本酸素アリパティブ取引損失と内部統制(上)」『月刊監査役』公益社団法人日本監査役協会 第601号 2012年7月 46-59頁。

#### 翻訳

鳥羽至英訳・青木茂男監訳『アメリカ会計学会 基礎的監査概念』国元書房 1982年。

鳥羽至英・八田進二・高田敏文共訳 トレッドウェイ委員会組織委員会『内部統制の統合的枠組み 理論篇』白桃書房 1996年。

鳥羽至英・八田進二・高田敏文共訳 トレッドウェイ委員会組織委員会『内部統制の統合的枠組み ツール篇』白桃書房 1996年。

鳥羽至英・村山徳五郎責任編集 八田進二・永見 尊・前山政之・鳥羽至英訳・解説『SEC「会計連続通牒」3』中央経済社 2002年 1-37, 131-200頁。

鳥羽至英(代表)・秋月信二(監訳)/福川裕徳(監訳)・岡嶋慶・鈴木孝則・永見尊・林隆敏・福川裕徳・前山政之・山崎秀彦共訳『21世紀の公開会社監査』ティモシー・B・バル/マーク・E・ピーチャー/アイラ・ソロモン共著 国元書房 2010年。

### 欧文論文

Toba, Yoshihide. 1980. A Semantic Meaning Analysis of the Ultimate Proposition to be verified by Independent Auditors. *The Accounting Review*. Vol.LV, No.4. American Accounting Association: 604-619.

Toba, Yoshihide. 2006. The Auditor's Speech Act and the Auditor's Report Re-examined. *Waseda Business & Economic Studies*. No.42. Graduate School of Commerce Waseda University Tokyo, Japan: 19-49.

Toba, Yoshihide. 2011. Toward a Conceptual Framework of Professional Skepticism in Auditing. *Waseda Business & Economic Studies*. No.47. Graduate School of Commerce Waseda University Tokyo, Japan: 83-116.

鈴木 孝則